

(仮称) 産業ミュージアム基本構想・基本計画 (原案)

令和7年12月

板 橋 区

目 次

第1章 (仮称) 産業ミュージアム基本構想・基本計画の策定背景

| | |
|----------------------|----|
| 1 策定目的 | 2 |
| 2 本構想・計画の位置づけ | 2 |
| 3 産業ミュージアムを取り巻く資源・価値 | 3 |
| 4 区産業の足跡と将来像 | 6 |
| 5 本構想・計画の方向性を導くストーリー | 10 |

第2章 (仮称) 産業ミュージアム基本構想

| | |
|----------------|----|
| 1 基本理念・基本コンセプト | 12 |
| 2 方向性・主要機能 | 13 |

第3章 (仮称) 産業ミュージアム基本計画

| | |
|--------------------|----|
| 1 本計画の基本的な考え方と基礎情報 | 16 |
| 2 ソフト事業計画 | 19 |
| 3 施設計画 | 36 |
| 4 多様な主体との連携による運営 | 41 |
| 5 オープンまでのスケジュール | 43 |

第1章

（仮称）産業ミュージアム 基本構想・基本計画の策定背景

- 1 策定目的
- 2 本構想・計画の位置づけ
- 3 産業ミュージアムを取り巻く資源・価値
- 4 区産業の足跡と将来像
- 5 本構想・計画の方向性を導くストーリー

1 策定目的

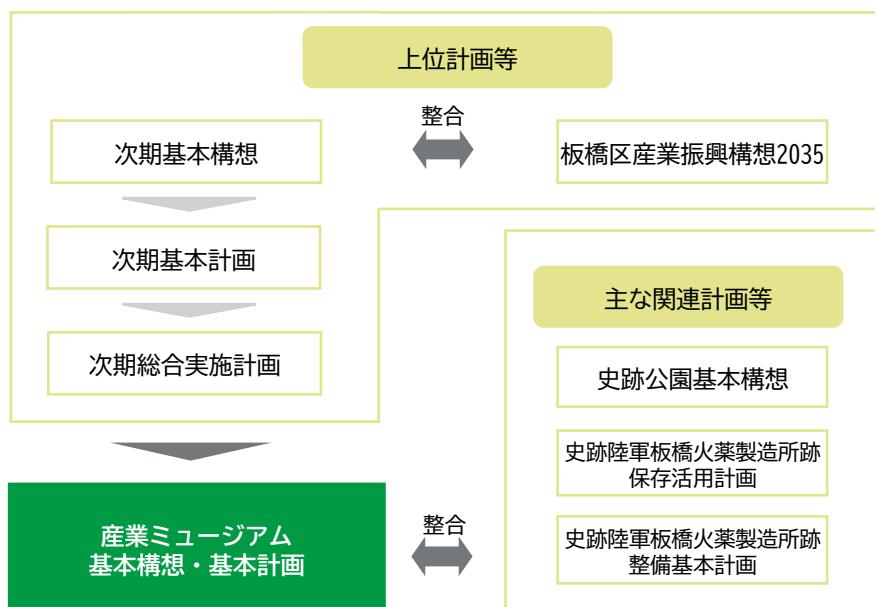
板橋区では、平成29年8月に「板橋区史跡公園（仮称）基本構想^{*1}」（以下「史跡公園基本計画」という。）を策定しました。同構想では、板橋区史跡公園（仮称）（以下「史跡公園」という。）の整備と歩調を合わせながら、史跡公園の整備予定地に現存している旧理化学研究所板橋分所（以下「旧板橋分所」という。）の建造物を活用し、「(仮称)産業ミュージアム（以下「産業ミュージアム」という。）」に整備していくことが示されています。

産業ミュージアムの整備にあたっては、旧板橋分所の建造物が持つ文化財的価値・歴史的ストーリーに加えて、今後の板橋区産業の方向性及び整備予定地の現況等を念頭に置きながら、**板橋の産業ブランドの向上に資する産業ミュージアム**の基本理念・コンセプト・具体的な機能等を整理していく必要があります。

令和7年度では、学識経験者、区民や関係団体等の意見を聴きながら、「**産業ミュージアム基本構想・基本計画**（以下「本構想・計画」という。）」を策定し、令和11年度中のオープンに向けて、計画的に産業ミュージアムの整備を進めていきます。

2 本構想・計画の位置づけ

「次期基本計画」や「板橋区産業振興構想2035」等の上位計画に加え、史跡公園の整備に係る関連計画等との整合性を図りながら、本構想・計画を策定します。



*1: 板橋区史跡公園（仮称）基本構想

(https://www.city.itabashi.tokyo.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/_032/_408/kihonkoso.pdf)

3 産業ミュージアムを取り巻く資源・価値

(1) 整備予定地の立地環境

史跡公園の整備予定地は、板橋区の南東部にあたる**加賀1丁目7・8番地**に位置しています。平成29年10月、国史跡「陸軍板橋火薬製造所跡」に指定されたこの地は、「史跡公園基本構想」において、「現・加賀公園エリア」「旧・火薬製造所エリア」「旧・理化学研究所エリア」に分けられています。

産業ミュージアムとして整備する旧板橋分所の建造物については、石神井川北側の旧・理化学研究所エリアに立地しており、**自然と調和した桜並木**と**遊歩道**に面しているのが魅力の1つとなっています。

「史跡陸軍板橋火薬製造所跡整備基本計画」でも示されているとおり、産業ミュージアムの整備は、旧・理化学研究所エリアに立地している旧板橋分所の建造物のうち、**「爆薬理学試験室」と「物理試験室」**を対象としています。



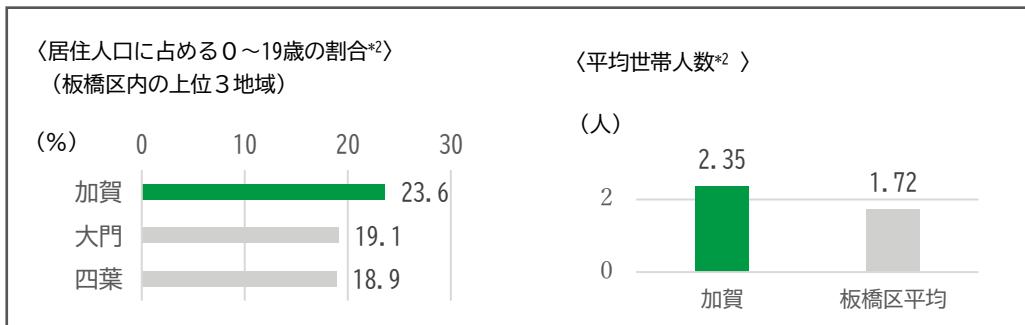
- ・都営三田線「板橋区役所前」駅 徒歩15分
「新板橋」駅 徒歩10分
- ・JR埼京線「十条」駅 徒歩15分
「板橋」駅 徒歩15分
- ・国際興業バス
「植村記念加賀スポーツセンター」徒歩5分



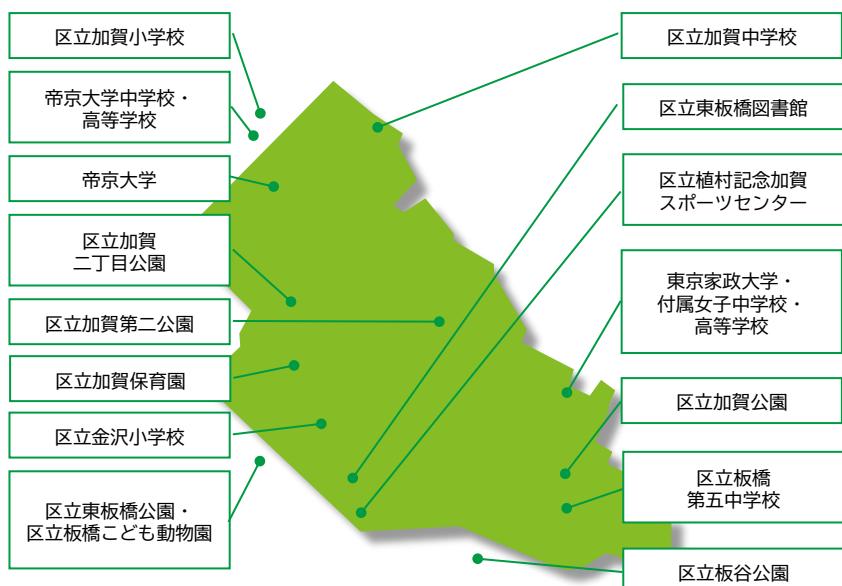
加賀地域は、多くの教育施設と公共施設があり、居住人口に占める0～19歳の割合が区内で最も高いエリアです。

また、平均世帯人数を比較してみると、板橋区平均が約1.7人であるのに対し、加賀地域は約2.4人となっています。居住人口に占める0～19歳の割合も踏まえると、板橋区の中でもファミリー層が集積していることが特徴といえます。

史跡公園の整備予定地周辺には、陸軍造兵廠の遺構等の近代化遺産群が点在しているとともに、史跡公園の外周を走る旧中山道沿いには、仲宿商店街や板橋宿不動通り商店街等の賑わい空間も存在しています。



〈加賀地域周辺の主な文教施設〉



*2: 「板橋区年齢別人口表令和7年8月1日」（板橋区） 各地域の丁目以降の合計を用いて算出

(2) 整備予定地の変遷

産業ミュージアムの整備予定地を含めた板橋区の南東部に位置する加賀地域一帯は、江戸時代には加賀藩の下屋敷が置かれた場所でした。江戸とその周辺の大名屋敷の中でも最大の約21万8千坪という広大な面積を有しており、狩猟や園遊会など藩主と家族が非日常を過ごす別荘として利用されました。石神井川の分水を利用して、雄大な景観をもつ池泉回遊式の大名庭園として整備され、今もその遺構である築山が加賀公園の中心に現存しています。

また、明治9年から昭和20年の終戦までは、近代的な火薬製造所及び研究所が設置されていたことから、現在もその建造物や遺構が多数残っています。

そして、戦後復興期の旧板橋分所では、日本の科学技術を象徴する基礎研究が継続的に行われ、先進的な科学技術研究の拠点にもなりました。

平成29年8月に策定した「史跡公園基本構想」では、当地が有する歴史的背景をはじめとした資源・価値に着眼し、近代化遺産を中心とする都内初の「史跡公園」として保存・活用を行うものとし、「板橋の歴史・文化・産業を体感し、多様な人々が憩い、語らう史跡公園」を基本コンセプトとして定め、”憩う” “学ぶ” “創る”を基本方針のキーワードとして示しています。



4 区産業の足跡と将来像

板橋区の工業が大きく発展した経緯を辿ると、明治政府が設立した板橋火薬製造所を核とした関連工場（軍工廠）の集積と、関東大震災後の帝都復興計画による大規模工場の移転・進出という2つの面を見ることができます。

こうした基盤の上に形成された、光学・精密機器産業の技術が戦後の復興を支え、「光学の板橋」としての名声を確立しました。その後、環境問題への対応や経済構造の転換期を経て、これから板橋区の産業は、産業振興にかかるプレイヤーのハブとなり連携を強化することで、「新たな発見に出会える、ブランド創造都市」という将来像と共に実現していきます。

（1）加賀藩下屋敷から板橋陸軍火薬製造所へ（～明治10年代まで）

明治4年、版籍奉還に先立ち、加賀藩は所有していた下屋敷を新政府へと上地しました。後の陸軍・海軍の母体となる兵部省は、当時、近代的な火薬製造所の建設を計画しており、その用地として旧加賀藩下屋敷のうち約3万坪の土地が確保されました。

そして明治9年、この地に国内初となる官営の火薬工場、陸軍砲兵工廠板橋屬廠（後の板橋陸軍火薬製造所）が創設されるに至りました。



『圧磨機圧輪記念碑』
ベルギー産の火薬圧磨機で、
硫黄、硝石、木炭を粉碎して
黒色火薬を製造していました。
(所在：加賀西公園)

（2）火薬研究所の設立（明治20～30年代半ば）

明治26年、日本初の無煙火薬工場である「綿火薬製造所」を建設しました。翌年から本格的に生産が始まった無煙火薬は、日清・日露戦争でも使用されました。

明治35年7月24日の板橋火薬製造所での爆発事故など無煙火薬の爆発が全国で頻発したことを受け、翌年、火薬研究所を設立しました。これは、無煙火薬の安全性の向上などを研究する、日本初の近代的な国立の理工学系研究所でした。



『招魂之碑』
無煙火薬事故の犠牲者を
悼む記念碑
(所在：加賀西公園)

（3）軍工廠の拡大（明治30年代半ば～大正10年前半）

明治9年に発足した板橋火薬製造所は、次第にその敷地を広げ、近隣には官営の軍工場が設置されたことに伴い、板橋区域の工業化の素地が作られていきました。

また、それらの工業や施設間を結び、物資や製造された製品などを運搬するため、明治中期に専用の軽便鉄道が敷設されました。その線路敷跡が現在も史跡指定地内に残されています。



大正12年4月当時、王子板橋間を
走っていた電気機関車《図3》

(4) 関東大震災後の工業地域化（大正10年半ば～昭和20年）

板橋区が誕生した昭和7年頃の工場数はわずか90あまりで、当時の人々からは、その広大な土地と無限の開発の可能性を秘めていることから、“東京の満州”と呼ばれていましたが、その風景は大正12年の関東大震災を契機に大きく変わっていきました。

震災により都心部が壊滅的な被害を受け、東京の復興は郊外の開発によって進められることになりました。

大正14年に東京市が決定した「帝都復興計画」に基づき、志村地域³は、大規模な工場も建設可能な「工業地域甲種特別地区」に指定されました。これにより、規模を問わず民間の工場が志村地域に集積し始め、その代表格として東京光学や凸版印刷などが進出し、現在の板橋区を代表する産業分野を形作っていきました。

その後工場が拡充していき、昭和10年には274工場、そして昭和15年には7.2倍の1,980工場に増加しました。

「工都板橋」の初出（昭和21年）

志村地域は都心部から適度な距離にあり、荒川低地と武蔵野台地の縁にあることから台地上は地盤が固く、荒川という舟運や排水に利用できる川があり、加えて中山道があることで陸路の便でも工場に好適な地勢がありました。また、近隣に軍の施設が集中していたことから、関連する企業や下請け工場が展開し、「工都板橋」と呼ばれるようになりました。

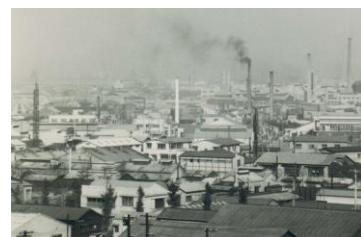
「志村ヲ中心トスル工業ハ近年急速ナル
発展ヲ遂ゲ、殊ニ戰時中ハ工都板橋ノ觀
ヲ丁シ工場数大小二千ヲ數エタルノ盛況
ヲ呈シタルモ、終戰ト共ニ煤煙ノ影、轍
ノ音、全ク絶工、現在操業ヲ続クルモノ
僅ニ指ヲ屈スルニ過ギズ」

『板橋区区勢概要昭和21年版』より

(5) 戦後の平和産業化と産業復興（昭和21年～30年代）

軍需産業により培われた光学・精密機器の高度な技術と、それを支える熟練した技術者が、戦後の板橋区の産業復興の核となりました。

昭和30年代頃、板橋区の主要産業は化学工業、非鉄金属、精密機器でしたが、中でも光学・精密機器は区の花形産業として重要な位置を占めました。昭和37～38年にかけて、日本の主要精密機器輸出の70%が板橋区から出荷され、品目は双眼鏡などの光学機器でした。これによって板橋区は「光学の板橋」としての確固たる名声を確立しました。



昭和38年頃の志村工業地帯

*3: ここでの「志村地域」というのは、東京府北豊島のことであり、現在の板橋区志村・小豆沢・蓮沼町・前野町・中台・西台・蓮根を含むいいたいを指します。

(6) 産業構造の転換（昭和40年～平成初期）

帝都復興計画に基づき、志村地域が「工業地域甲種特別地区」に指定されたことにより、板橋区には化学や金属加工を中心とする産業基盤が形成されました。この基盤は、昭和40年代において区の産業構造の根幹をなしていましたが、高度経済成長とともに産業が拡大した結果、地域の環境容量を超えてしまい、空気汚染や水質汚濁が深刻化しました。このため、行政による規制強化や下水道整備が急務となりました。

公害問題が顕在化した昭和50年代からバブル経済に向かう昭和60年代にかけて、区の産業構造は劇的な転換期を迎えます。従来のものづくりに加え、デザインやソフトウェアといったサービス的要素が求められるようになります。

そして、平成元年からのバブル経済の急激な崩壊とそれに伴う円高により、コスト競争力を失った製造業は操業維持が困難となり、中小企業は大打撃を受けました。この危機的な状況に対し、板橋区は姿勢の転換を求められ、新たな産業振興策を打ち出します。その象徴的な取組が、中小企業が技術や製品をアピールし、新たな販路を開拓する場として平成9年に始まった「いたばし産業見本市」の開催です。さらに、平成15年度には「板橋製品技術大賞」を創設し、区のものづくり文化や技術力を地域資源としてブランド化しようと試みました。

これらの取組の結果、板橋区の製造業は量的な規模は縮小したものの、質的に新たな段階へと進化を遂げていったのです。

(7) 区産業の付加価値化（平成10年半ば～現在）

平成17年に、板橋区の産業の未来像を示す初の指針として「板橋区産業振興構想」が策定され、区のめざす方向として「産業文化都市」が掲げされました。

この構想に基づき板橋区は、友好交流都市であるイタリア・ボローニャ市（昭和56年提携）との交流を活かし、「絵本のまち」としてのブランディングを推進しました。

また、高度経済成長期から規模を縮小したものの、板橋区は工業専用地域をもつ都内有数の工業都市であるため、ものづくり企業が集積しており、特に光学・精密機器産業は、医療、農業、建築といった分野へと市場の拡大を果たしました。

そして今、国際的な競争の激化と市場の多様化、デジタル技術の急速な普及（DX）、脱炭素社会への移行（GX）に加え、国内における少子高齢化と生産年齢人口の減少といったメガトレンドの波は、従来の産業構造を次なる成長ステージへと進化させる大きな契機をもたらしています。

〈板橋区における製造品出荷額等上位5業種の23区内における順位^{*4}〉

| 業務用機械器具製造業（光学・精密機器産業含む） 23区中第1位 | | | |
|------------------------------------|-------------------|----------------|-----------------|
| 印刷・同関連業 23区中第1位 | 食料品製造業 23区中第2位 | 鉄鋼業 23区中第2位 | 化学工業 23区中第3位 |

*4: 「2023年経済構造実態調査（製造業事業所調査）」（総務省、経済産業省）

(8) 区産業の将来像

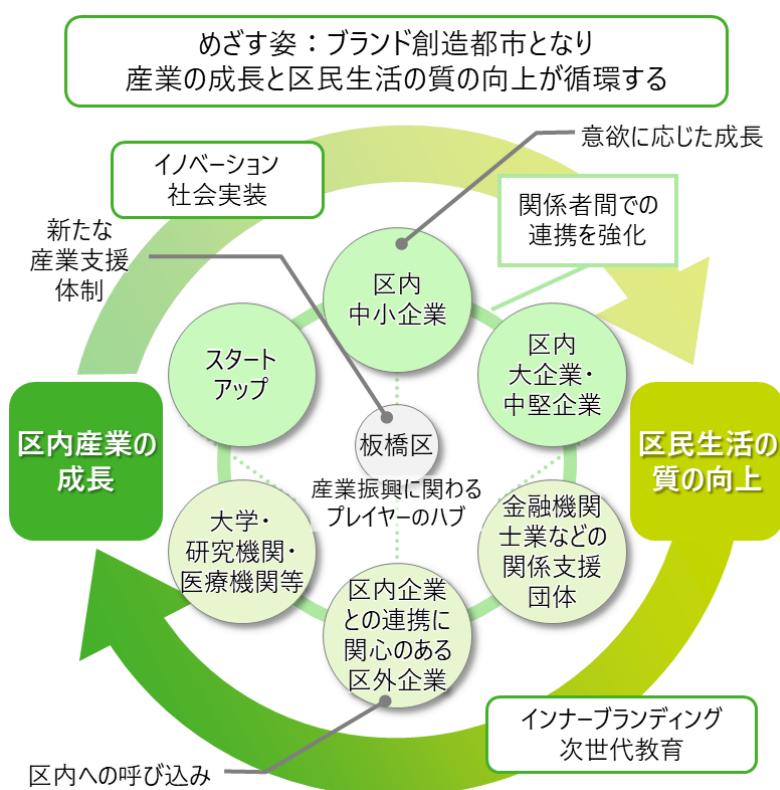
こうした背景を受け、次なる指針である「板橋区産業振興構想2035」では、将来像として「新たな発見に出会える、ブランド創造都市」を掲げました。基本的な視点としては、「変革」「連携」「集積」を据え、成長志向の産業育成に取り組んでいくことが示されています。

この将来像を実現するために、産学官金連携を推進し、区内外の大学や研究機関などと協働することにより、次世代の産業を支える先端技術や新技術の開発を活発化させていきます。

これにより、「新たなひとや技術等との出会いを通じて多くのイノベーションが創出される『ひととひとがつながることで産業が成長するまち』」というブランドの確立をめざしています。

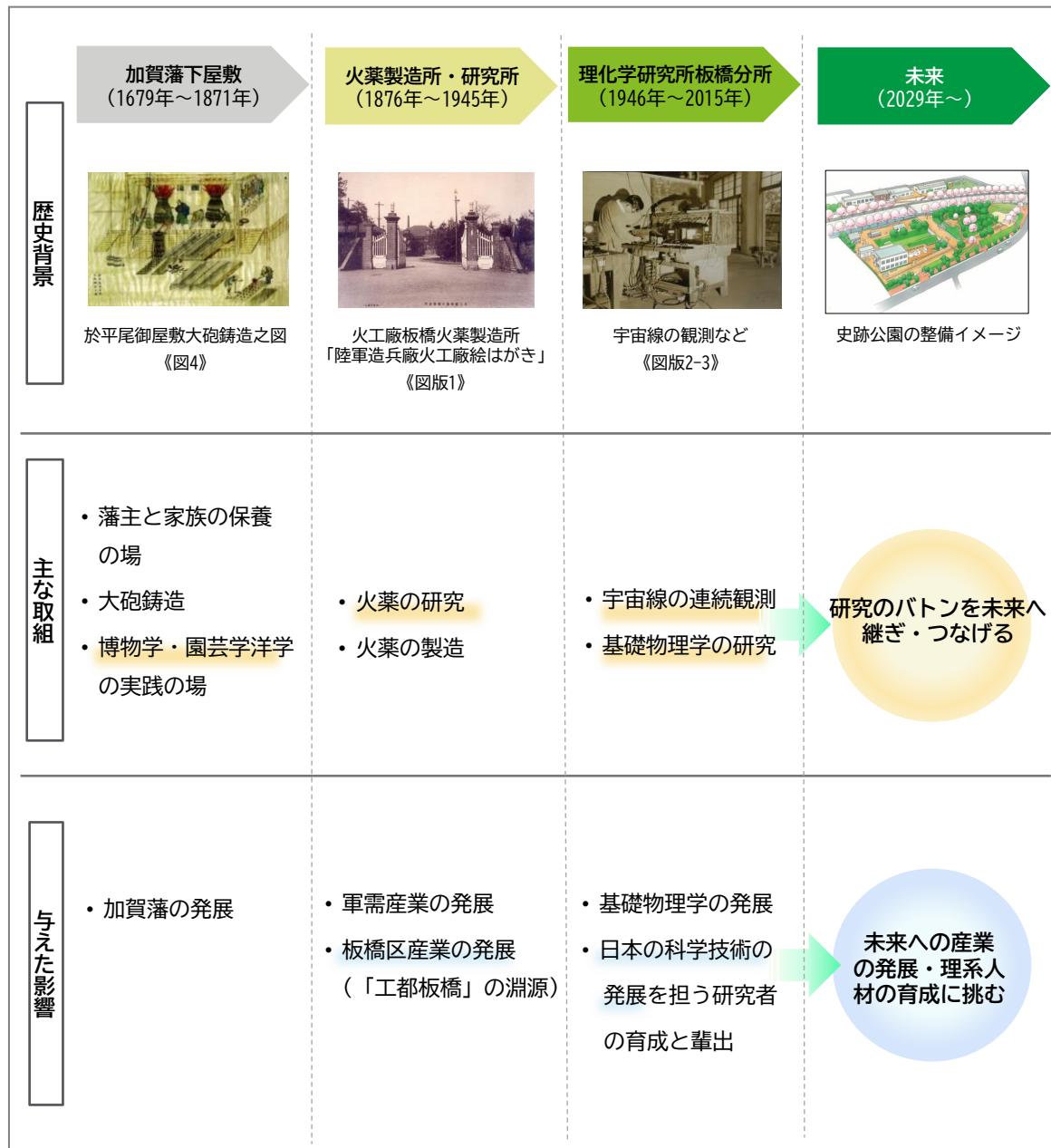
2035年の将来像

新たな発見に出会える、ブランド創造都市



5 本構想・計画の方向性を導くストーリー

第1章より、加賀地域で戦前・戦後・近年まで紡いできた歴史と、その歴史に紐づく板橋区産業の発展や先進的な科学技術研究等の有形・無形の創造の軌跡こそが産業ミュージアムを取り巻く資源・価値であると捉えています。



第2章

（仮称）産業ミュージアム基本構想

1 基本理念・基本コンセプト

2 方向性・主要機能

1 基本理念・基本コンセプト

第1章の「5 本構想・計画の方向性を導くストーリー」より、「研究のバトンを未来へ継ぎ・つなげる」「未来への産業の発展・理系人材の育成に挑む」という視点を導きました。この視点を踏まえて本構想・計画を策定することとし、以下のとおり産業ミュージアムの基本理念・基本コンセプトを定めます。

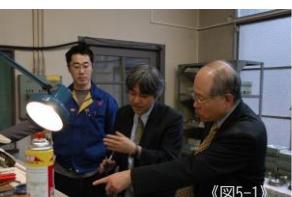
基本理念

当地の歴史に紐づく区産業の発展や研究の軌跡の発信と体験を通じて板橋の産業ブランド^{*5}を向上させるとともに次世代の産業を担う人材や理系人材^{*6}を育む拠点とする

基本コンセプト

— 加賀の歴史が紡ぐ、創造と知の起点 —

- これまで知られてこなかった加賀の歴史を学び、未来を創造する場所
- 好奇心を呼び起こし、探求と研究のバトンを未来につないでいく場所
- 「ひと」と「ひと」とのつながりを生み出し、新たな挑戦がはじまる場所



*5: 板橋区産業全体で醸成するブランドです。「板橋区はひととひとがつながることで産業が成長しているまちである」などの産業全体の魅力や価値をブランドとして確立し、区内産業の認知度向上、新規ビジネスや人材確保の機会獲得に繋がる状態をめざします。

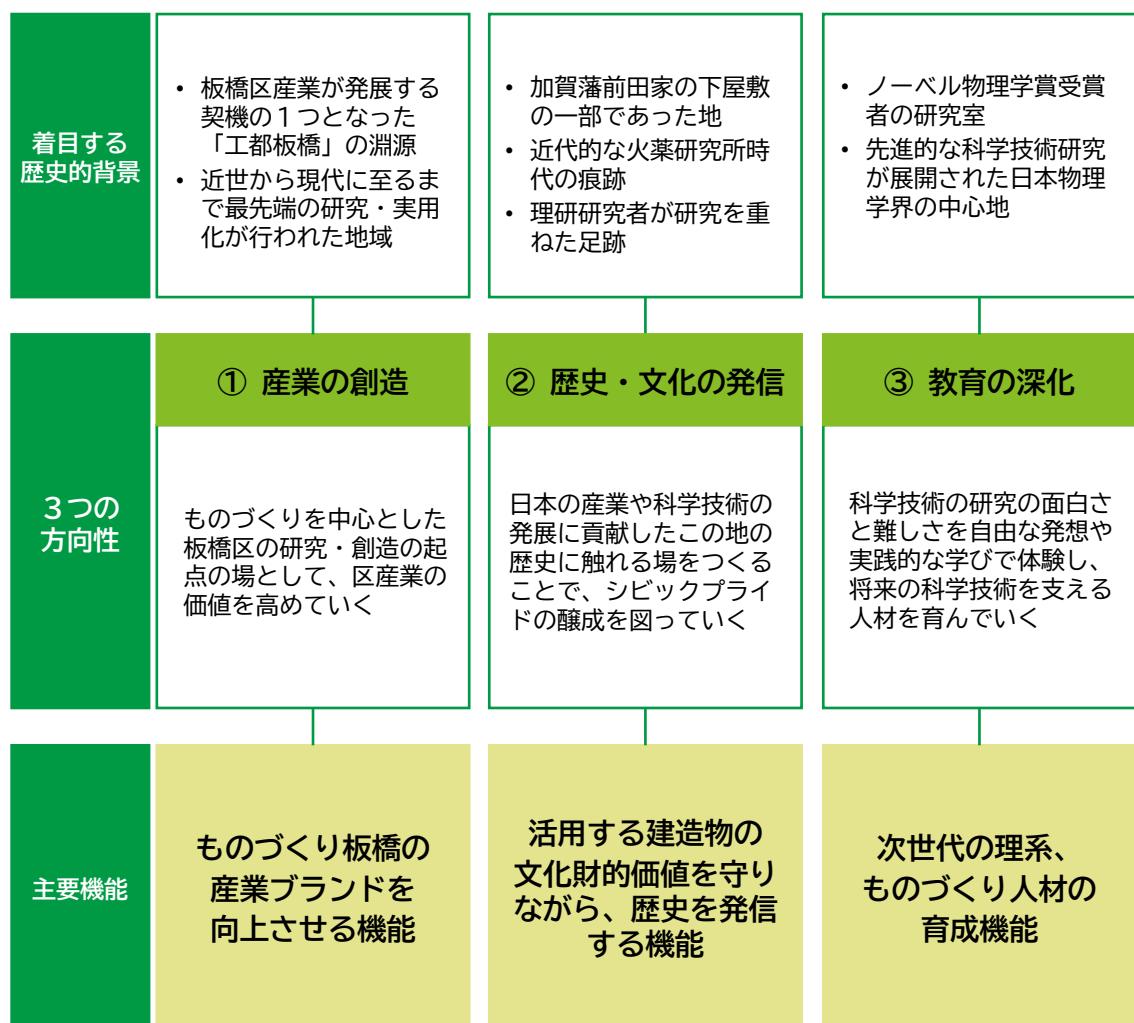
*6: めざす理系人材像=科学への好奇心と豊かな人間力をもち、探求する意欲と専門性・深い洞察力をもって社会課題に向き合い、産業の発展につながる価値を創造し、未来の社会を切り開く人材。

2 方向性・主要機能

第1章より、「ものづくり板橋」を形作る原動力の1つとなった**産業の側面**、江戸時代にさかのぼる加賀藩下屋敷の地で紡いできた**文化と歴史の側面**、日本の先進的な科学技術の研究者を育成・輩出してきた**教育の側面**において、着目すべき**歴史的背景**を捉えています。

また、基本理念と基本コンセプトを踏まえて、これまで紡いできたものを**継ぎ・守る**とともに、**新たな挑戦・創造**に取り組んでいくことが重要です。

整備する旧板橋分所の建造物の歴史的価値を未来に向けて保存していくということを大前提としつつ、以下のとおり産業ミュージアムの方向性・主要機能を定めます。



第3章

（仮称）産業ミュージアム基本計画

- 1 本計画の基本的な考え方と基礎情報
- 2 ソフト事業計画
- 3 施設計画
- 4 多様な主体との連携による事業運営
- 5 オープンまでのスケジュール

1 本計画の基本的な考え方と基礎情報

(1) 基本方針

本計画は、第2章の基本構想で示した内容を踏まえ、産業ミュージアムで実施する事業の方向性、建造物や空間の活用方針等を定めることで、基本理念で掲げる「板橋の産業ブランドを向上させるとともに、次世代の産業を担う人材や理系人材を育む拠点」に整備することを目的として策定します。

「板橋区次期基本構想」では、区の将来像として「未来をひらく緑と文化のかがやくまち“板橋”」と掲げ、将来像が実現されたまちのすがたを「誰もが幸せを感じている」、「つながりと愛着がはぐくまれている」まちとし、将来像を実現するための計画として、「板橋区次期総合基本計画」及び、「板橋区次期実施計画」が定められます。また、「板橋区産業振興構想2035」では、「変革」「連携」「集積」を基本的な視点として成長志向の産業育成に取り組んでいくことが示されています。

本計画では、産業ミュージアムがこうした区の将来像の実現に寄与する施設となるよう、構想に基づく具体的な事業等の方向性について明らかにしていきます。

そして、板橋区が持つ地域資源を生かしながら、一人ひとりのアイデアや工夫が原動力となり、多様な組織が協力して新しい価値を生み出し、都市全体の魅力を高める「創造都市」の実現といった視点も視野に入れて整備を進めていきます。

なお、今後、本計画に基づき、建造物の内部デザインを検討した後、基本設計、実施設計を実施し、建築工事の施工につなげるための建築上の諸要件を明確にしていく予定です。

(2) 記載範囲

本計画では、以下の事項について具体化することで、今後の設計や整備につなげていきます。

① ソフト事業計画

産業ミュージアムで実施するソフト事業を展開していくための基本的な考え方と方向性を明確にしながら、具体的な事業案について示していきます。

② 施設計画

産業ミュージアムとして整備する「爆薬理学試験室」と「物理試験室」の歴史的価値や旧板橋分所時代のエピソードにも触れながら、建造物の活用方針及び空間の活用イメージについて示していきます。

③ 多様な主体との連携

産業ミュージアムに関わる地域の各主体の役割と連携の方針について掲載します。

④ オープンまでのスケジュール

本計画の策定からグランドオープンまでのスケジュールについて示していきます。

(3) 整備の対象となる建造物の基礎情報

① 爆薬理学試験室

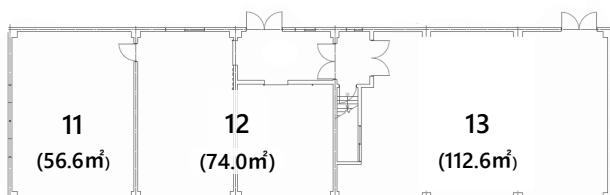


名 称 爆薬理学試験室
建築年代 昭和13年（1938）
構 造 鉄筋コンクリート造平屋建
地下1階建

○ 建造物の用途（火薬研究所時代）

火薬研究所で、特に爆薬に関する実験が行われた施設

○ 建造物内部の配置図 1階部分^{*7}



B 棟

○ 内部の様子

11号室



12号室天井



地下



地下へ続く階段



*7: 平米数は概算値、部屋番号は板橋分所時代に用いられていたものを記載しています。

② 物理試験室



名 称 物理試験室

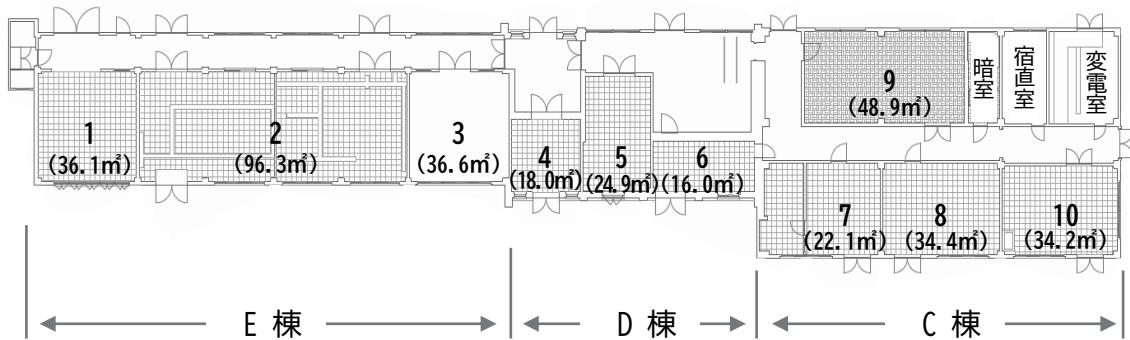
建築年代 C 棟：昭和 12 年 (1938)
D 棟：明治 40 年 (1907)
E 棟：昭和 6 年 (1931)

構 造 C 棟：鉄筋コンクリート造平屋建
D 棟：煉瓦造平屋建
E 棟：鉄筋コンクリート造平屋建

○ 建造物の用途 (火薬研究所時代)

火薬研究所の研究棟として使用された施設。火薬の密度や粒度に関する物理試験を行っていた。

○ 建造物内部の配置図^{*8}



○ 内部の様子

C 棟 9号室



D 棟 5号室付近



E 棟 2号室



E 棟 2号室



E 棟 廊下



*8: 平米数は概算値、部屋番号は板橋分所時代に用いられていたものを記載しています。

2 ソフト事業計画

(1) ソフト事業の展開に係る基本方針

基本構想で示した基本理念及びコンセプトを踏まえ、次の基本的な考え方に基づき、ソフト事業を展開していきます。

① 当地の歴史を背景とした事業展開

産業ミュージアムの整備地で重層的に織りなされた歴史を重要な“価値”と捉え、その歴史を背景としたソフト事業の展開を行います。特に、江戸時代から近年に至るまで、当地で永く行われてきた「研究」というキーワードに着目しながら、「産業の発展」、「理系人材の育成」につなげていきます。

② 日々研究・実験が行われ、進化・発展を続ける事業展開

展示やプログラムなどの事業は、オープン後も継続した研究や実験的な試みを行うことで、進化・発展を続ける事業展開を行います。展示の運営に従事する職員が来訪者と同じ目線で双方向的なコミュニケーションを図り、日々の展示研究に生かしていきます。

③ 多様な主体との共創により新たな価値が創造される事業展開

多種多様な研究が行われてきた歴史を持つ当地では、ひととひとがつながり、意見やアイデアが交わされることで、数々の価値が創造されました。産業ミュージアムでもその文化を引き継ぎながら、ソフト事業を通じて、地域や企業、大学や研究機関等の様々な主体がつながり、共創することで、新たな価値が創造される事業展開を行います。

④ 柔軟に運用が可能な事業展開

日々の研究や、ひととひとがつながることによって生まれたアイデアを反映させるためには、柔軟な運用による事業展開が重要となります。そのためには、常設の展示は必要最低限にとどめ、日々生まれ変わりながら進化・発展を続ける可変的な展示を展開します。

⑤ デジタル技術を積極的に活用した事業展開

ソフト事業の展開にあたっては、AIやIoT等の最新技術を積極的に活用し、時代に即した運営手法となるよう検討を行います。また、展示資料等をデジタル・アーカイブ化することで、施設に直接来なくても区の産業の魅力を知ることができるサービスを提供します。

(2) ソフト事業の展開の方向性

前述のソフト事業の展開に係る基本方針に基づき、次の6つのテーマからソフト事業を行っていきます。

6つのテーマに基づく事業展開

テーマ1：ものづくり



区産業の発展の歴史を織り交ぜた企画展示や、技術と芸術を融合させたものづくりワークショップなどを実施します。この地が日本の工業や区産業の発展に影響を与えた歴史を持つことを伝えつつ、企業の魅力やものづくりの面白さを発信し、区の産業ブランドの向上とものづくり人材の育成を図っていきます。

テーマ2：まなび



旧板橋分所が使用していた建造物の構造や改変の歴史に着目しながら、理系人材の育成プログラムやアントレプレナーシップ教育等のプログラムを展開し、科学技術の進歩に貢献するためのトップ理系人材の育成につなげていきます。

テーマ3：ヒストリー



今もなお建造物内に残された火薬製造所時代の遺構や、宇宙線・基礎物理学の研究者たちの足跡など、この地の研究の歴史を継続して調査しながら、訪れるたびに新たな発見が与えられる産業遺産や旧板橋分所の研究者たちの展示事業を行っていきます。

テーマ4：実証実験



建造物内の独特の雰囲気を生かした企業や研究者の実証実験の場をつくります。来訪者が楽しみながら参加できるモニタリングなどを行うことで、地域や社会の課題解決に向けた新技术の開発や研究を前進させていきます。

テーマ5：コミュニティ



ひととひと、企業と企業、研究者や地域がつながることを目的として、まちづくりや地域課題解決につながる事業展開を行います。産業ミュージアムでの交流を生み出すことにより、まちづくりにおける社会課題の解決や、新たなイノベーションを後押しします。

テーマ6：あそび



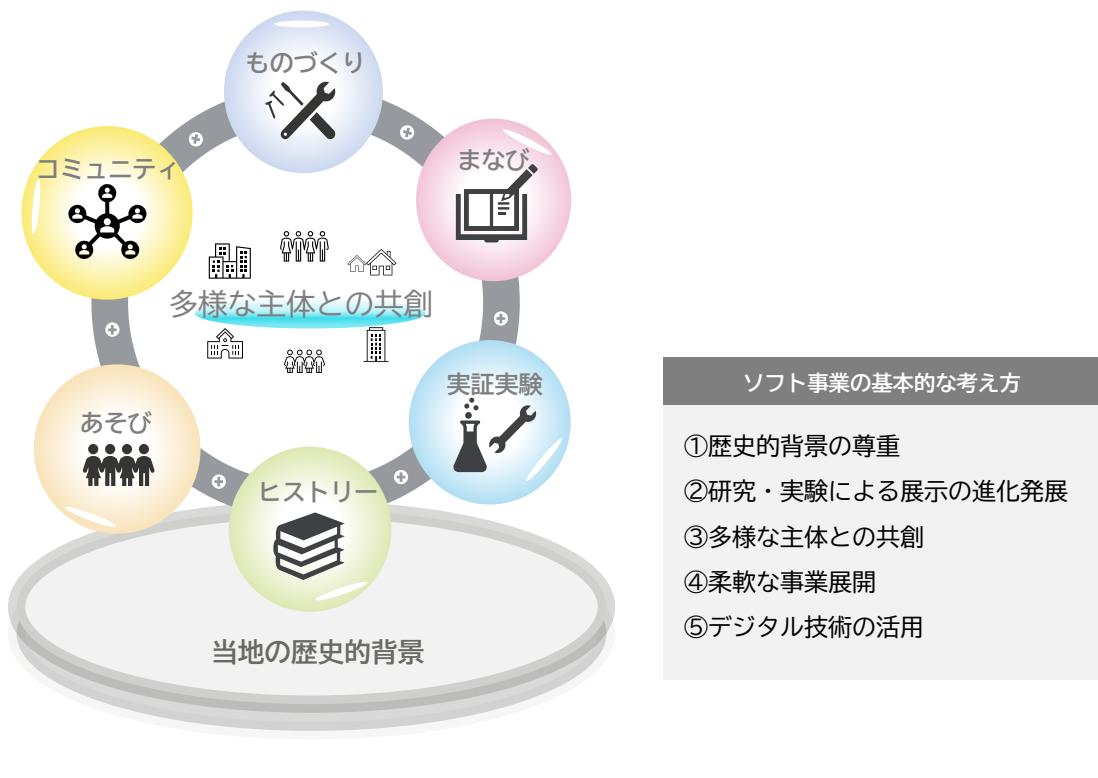
産業ミュージアムが公園内に立地するといった環境や特性を十分に生かしながら、遊びに対する研究や実験の要素を加えつつ、乳幼児連れ親子などが身近に知育体験ができる場所、児童の好奇心を育む場所を提供し、継続的な来訪者を生み出していくます。

(3) 基本構想における3つの方向性とソフト事業の関係性



(4) 事業展開のイメージ

当地の歴史的背景・ソフト事業の基本的な考え方を踏まえた6つのテーマに基づき、多様な主体との共創による事業展開を行うことで、基本コンセプトとして掲げる「創造と知の起点」として社会的価値を生み出し、生まれた価値を区内外へ拡げていきます。



① 産業の創造

② 文化と歴史の発信

③ 教育の深化

加賀の歴史に紡がれた、創造と知の起点としての役割を発揮する

- ・これまで知られてこなかった加賀の歴史を学び、未来が創造される
- ・好奇心を呼び起こし、探求と研究のバトンを未来につないでいく
- ・「ひと」と「ひと」とのつながりが生み出され、新たな挑戦がはじまる

・社会的価値の広がり イメージ

産業ブランドの向上



(仮称) 産業ミュージアム



次世代の人材育成



区への愛着や誇りの醸成



Creation and Knowledge

創造 と 知 の起点として

多様な主体と**共創**し「社会的価値」を区内外へ拡げる

(5) 各事業の具体的な内容

6つのテーマの具体的な内容は次のとおりです。なお、それぞれのテーマに紐づく事業展開のイメージについては、あくまでも本計画の策定時点で想定される事業例を示すものであり、今後も社会情勢の変化や時代の潮流に合わせて柔軟に見直すこととします。

① 「ものづくり」をテーマとした事業展開

ものづくり

日本の産業と科学技術の進展に貢献した地で
区産業の技術に触れ、創造力を育む事業

区内企業との連携による企画展示の実施や、体験型ものづくりワークショップ、ファクトリーツアーを開催します。特にワークショップでは、創造性や表現力といったものづくりに不可欠なアートの要素を取り入れます。

区内産業の魅力を伝え、デザインやアートといった分野を横断したものづくりの面白さを発信することで、来訪者の創造性と探究心を育み、区の産業ブランドの向上と、未来のものづくり人材の育成を図っていきます。

事業の実施目的

- ・区の産業ブランドの向上
- ・ものづくり人材の育成

歴史的ストーリーや事業の実施背景

- ・江戸時代に加賀藩下屋敷が置かれたこの地に、明治政府が初の近代的な火薬製造所を設置したことが契機の1つとなり、その周辺の東京北西部には、光学兵器の製造を含む多数の軍需工場群が形成され、板橋区域の工業化の素地となりました。
- ・整備予定地は、板橋の近代的なものづくりの原点として日本の光学産業を象徴する区内志村周辺を形成させた歴史を有しており、区産業の軌跡を語る上では欠かすことができない貴重な場所となっています。

メインターゲット

- ・小中学生、保護者、
ものづくりに关心が高い区内外の住民

事業展開のイメージ例

【事業の方向性1】クリエイティブラボ事業

工具、画材、3Dプリンターなどのデジタル機器等を自由に使えるように整備し、子どもたちが自由な発想で創作活動や探究活動に取り組める、クリエイティブ・ラーニングスペースを展開します。この活動を安全かつ充実させるため、機材に精通したメンターや専門スタッフを常時配置し、安全を確保しつつ自発的な探究活動を伴走支援します。

また空間デザインでは、創造性と自発性を最大限に引き出すため、用途を決め込みすぎない余白のあるスペースを設けます。道具や素材は豊富に用意しつつも、専門スタッフに見守られながら、何を作るか、どう使うかは子どもたち自身に委ねます。この自由な環境が、思いがけない共創や新しい発想に出会う偶発的な機会を創出します。

■ 事業例

- ・自由な創作活動ができる場（クリエイティブラボ）の運営
- ・企業・大学・研究機関などとの連携企画「コラボ・クリエイティブデー」の開催

【事業の方向性2】産業・ものづくり企画展示

探求心を育みながら、ものづくりの楽しさを体験できる企業等との連携による展示事業を行います。板橋区の特色である光学産業や、印刷業をはじめとしたさまざまな業種と連携し、ものづくりの過程や、製品のプロダクトデザインの変遷の歴史など、ものづくりの魅力を来訪者に伝えていきます。

■ 事業例

- ・町工場のものづくりに込められた想いや、地場産業の歴史に触れる企画展示
- ・企業の新技術や新製品に触れ、未来を体感する企画展示
- ・学生と企業が共同して企画する産業・ものづくりに関する企画展示

まなび

この地ならではの物理、科学の体験を通して、
楽しみながら学び、次世代の理系人材を育む事業

理系人材の育成プログラムやアントレプレナーシップ教育等のプログラムを展開します。また、理系への関心が高い小中学生を対象に、ハイレベルな理系知識・探求機会を提供し、トップ理系人材の育成につなげていきます。

事業の実施目的

- ・ 理系人材の育成
- ・ チャレンジマインドの育成

歴史的ストーリーや事業の実施背景

- ・ 戦後、陸軍省の廃止に伴って火薬製造所の稼働が終了し、その跡地には現在の公益財団法人野口研究所が入所したほか、理化学研究所「板橋分室（後の「板橋分所」）」が開設されました。
- ・ 特に板橋分室では、仁科芳雄と弟子たちが宇宙線研究を展開するとともに、湯川秀樹といったノーベル物理学賞受賞者が研究室を構える等、日本の先進的科学技術の研究拠点として研究成果が世界に発信されました。

メインターゲット

- ・ 小中学生、保護者

事業展開のイメージ例

【事業の方向性1】理科の不思議体験ワークショップ

子どもたちの好奇心を呼び起こす不思議な現象をワークショップや実験形式で体験しながら学び、探求する体験型事業を行います。物理領域だけでなく、施設内の果樹・草花を生かし、生物・地学領域への関心喚起も展開していきます。

■ 事業例

- ・ 宇宙線研究など、当地での研究を楽しみながら学べる物理科学ワークショップ
- ・ 企業・大学・研究機関・学会などと連携したワークショップ

【事業の方向性2】次世代の理系人材育成事業

理系人材を育成するセミナーや探究活動、企業・大学・研究機関・学会等の関係機関との連携事業を展開していきます。

■ 事業例

- ・ 企業・大学・研究機関・学会などと連携した特別セミナー
- ・ ドローンをはじめとした次世代の技術を活用した体験型の理系人材育成事業

実証実験

企業や大学・研究機関が連携して行う
実証実験の拠点としての事業

来訪者が楽しみながら参加できる参加型の実証実験の場をつくることで、企業や研究者の実証実験の場を提供し、地域や社会の課題を解決するための新技術や研究のモニタリング等を行います。

事業の実施目的

- ・ 産学公連携による新たな価値の創出
- ・ 区の産業ブランドの向上

歴史的ストーリーや事業の実施背景

- ・ この地では、江戸時代の加賀藩下屋敷時代に博物学、園芸学、洋学の実践の場となったほか、火薬研究所時代には、火薬研究や実験が行われてきました。
- ・ 旧板橋分所時代には、宇宙線の連続観測や、基礎物理学の研究や実験が継続的に行われ、平成27年までの約70年間に渡り、国内外における物理学の発展に貢献してきました。

メインターゲット

- ・ 小中学生、企業、大学・研究機関

事業展開のイメージ例

【事業の方向性1】新技術や新製品の実証実験体験

企業や大学の新技術や新製品の実証実験を展開することで、利用者が楽しみながら参加できる実験やモニタリングの場をつくります。

■ 事業例

- ・ 企業の新製品・新商品の開発に向けたモニタリング
- ・ 企業や大学、研究機関との共同実験

【事業の方向性2】子ども発明ラボ事業

「いたばし未来の発明王コンテスト」とのタイアップイベントを開催することで、子どもたちが楽しみながら独創的なアイデアを生み出す場をつくります。

■ 事業例

- ・ 発明をテーマにしたものづくりワークショップ
- ・ コンテスト入賞作品の発明アイデア実証プロジェクト

ヒストリー

産業遺産を保存・展示するとともに、
区産業や当地の研究の歴史を発信する事業

建造物に残る火薬製造所時代の遺構や、宇宙線・基礎物理学の研究、また研究者たちについて施設利用者にわかりやすく伝えるための展示を行います。当地の歴史や区産業の歴史を継続して調査し、日々進化する展示を行います。

事業の実施目的

- ・ 旧板橋分所が使用していた建造物の歴史を発信
- ・ シビックプライドの醸成

歴史的ストーリーや事業の実施背景

- ・ 当地の建造物には、火薬研究所時代に建てられた防爆構造を持つ建造物や電気軌道のレール跡、理研時代の研究活動に合わせて施された電子計算室や中性子線観測土台の増改築の痕跡など、史跡の本質的価値を構成する諸要素が当時まま残されています。
- ・ 旧板橋分所時代には多くの研究者が物理学の研究を行ってきた場所であり、今なお区の学芸員によって、その歴史が紐解かれ続けています。

メインターゲット

- ・ 地域住民、歴史・遺構ファンや観光客

事業展開のイメージ例

【事業の方向性1】遺構・建造物の展示

建造物の内外部において、軌道レール跡や理研時代の増改築部分の遺構や、建造物構造の改変理由や建具の解説等を展示します。

■ 事業例

- ・模型や立体映像を活用し、建物の構造建具の特徴などを分かりやすく解説する展示
- ・建造物の構造や歴史に紐づけた物理・科学を「謎解きゲーム」によって学習するプログラム

【事業の方向性2】研究活動の軌跡と最先端研究の展示

宇宙線研究や基礎物理学の研究の歴史をはじめとした、旧板橋分所の研究者や研究成果と、それが基となった技術や最先端研究について展示します。

■ 事業例

- ・旧板橋分所の著名研究者の功績・エピソード・資料を紹介するコーナー
- ・旧板橋分所時代の研究成果とそれに結びつく最先端の研究に関する企画展示

【事業の方向性3】歴史研究セミナー

旧板橋分所における研究の歴史や、近代科学・産業史に関する継続的な研究と、セミナーや企画展等を実施します。

■ 事業例

- ・関係者・専門家による旧板橋分所や近代産業史をテーマにしたセミナー・企画
- ・区内企業が有する産業遺産のデジタル展示

あそび

歴史的価値がある建造物内で、
子どもたちがのびのび遊べる事業

公園内に立地する特性を活かし、日常的に利用できる開かれた遊びの要素を提供することで、児童の好奇心を育む場をつくります。

さらに、STEAM教育の視点を取り入れた研究や実験の要素を組み込みます。こうした学びのある遊びを通じて、身近に知育体験ができる場所を提供し、親子や児童の交流を生み出します。特別な場所ではなく、日常的に立ち寄れる拠点として、継続的な来訪者と地域への定着を図ります。

事業の実施目的

- ・遊びを通じた他の事業（ものづくり等）へのいざない
- ・継続的な来訪者の確保

歴史的ストーリーや事業の実施背景

- ・遊ぶことは、子どもの身体的、精神的な発達を促し、創造性や問題解決能力、注意力やコミュニケーション能力などを育みます。
- ・旧板橋分所時代にも、研究の息抜きや研究員同士の親睦を深めることを目的として、研究の合間に遊びの要素が取り入れられていた歴史があります。
- ・公園内に位置する施設といった特性を活かした遊びの場を提供することで、地域の愛着の向上とリピーターの定着につなげるとともに、発育や年齢に応じた他の事業へのいざないを行います。

メインターゲット

- ・幼児～小学生低学年、保護者

事業展開のイメージ例

【事業の方向性1】乳幼児キッズスペース事業（知育研究の場）

親子で過ごせる乳幼児向けスペースを展開します。知育玩具・絵本など研究者・企業とコラボした知育研究の実証の場としての活用も検討します。

■ 事業例

- ・ 乳幼児・キッズスペースの運営
- ・ 企業・大学・研究機関などとの連携事業の展開

【事業の方向性2】遊びを軸にした体験展示

地域のボランティアが“遊びの案内人”となり、遊びを学びや発見へと導く低年齢向けの事業展開を行います。

■ 事業例

- ・ 過去から現在につながる“遊び”を紹介する企画展示やワークショップの展開
- ・ ネジやギアなどの機械要素を使ったものづくりを感覚的に学べる体験展示

【事業の方向性3】絵本のまちを推進する事業

絵本のまちいたばしの関連事業と連携しながら、気軽に絵本に触れる場を展開し、子供たちの想像力と好奇心を育みます。

■ 事業例

- ・ 絵本を自由に読める絵本コーナーの展開
- ・ 絵本に関連した技術やものづくりを紹介する企画展示

□ ミュニティ

国史跡の空間で「ひと」と「ひと」が つながり、文化が生まれる事業

ひと・企業・研究者・地域が連携し、地域課題の解決や新たなまちづくりにつながる事業を展開します。これに加え、子どもたちが安心して過ごせる居場所を整備・提供することで、世代や立場を超えた新たな交流を生み出します。

産業ミュージアムを地域交流と国際交流の双方を担う多機能な交流拠点の一つとして活用することで、グローバルな視点を持った社会課題の解決や、地域全体の新たなイノベーションを後押しします。

事業の実施目的

- ・ 産業ミュージアムにおける地域の発展に向けたコミュニティの創出
- ・ 産学公連携による新たな価値の創出

歴史的ストーリーや事業の実施背景

- ・ 歴史的に研究が行われてきた当地では、ひととひとがつながり、意見やアイデアが交わされることで、数々の価値が創造されてきました。
- ・ 現代においてもその文化を引き継ぎ、ソフト事業を通じて、地域や企業、大学や研究機関などの様々なコミュニティがつながり、意見やアイデアを共有することで、新たな価値が創造される事業展開をめざします。

メインターゲット

- ・ 地域住民、企業、大学、研究機関

事業展開のイメージ例

【事業の方向性1】コミュニティラウンジ事業

施設利用者が交流できるラウンジスペースでの施設企画・利用者企画による交流イベントを行います。区民・施設利用者・企業・大学・地域等が集まり待ちの未来を考える交流イベント。

■ 事業例

- 区内企業・大学・研究機関などが情報を交換し、新しい事業や共同研究の種を生み出すネットワーキングイベント

【事業の方向性2】コミュニティファーム事業

施設に自生する果樹も活用しながら、農を通じたコミュニティの醸成、企業・大学等と連携した「食」「農」に関する事業展開を行います。

■ 事業例

- 敷地内に自生する果樹を活用したコミュニティ活性化事業（夏みかん、梅、びわ、柿など）

【事業の方向性3】加賀藩下屋敷を紐解く創造事業

当地が江戸時代に加賀藩前田家の下屋敷の一部であった地域特性を生かすため、下屋敷時代における当地の歴史・文化を掘り下げつつ、友好交流都市である石川県金沢市や同市の企業、関係機関等との連携事業を展開していきます。

■ 事業例

- 金沢の伝統文化体験（金沢市と連携した金箔・手染めや練り菓子作り体験）
- 加賀野菜の魅力に迫るイベント

3 施設計画

(1) 施設計画にかかる基本的な考え方

産業ミュージアムの整備は、旧板橋分所の建造物のうち、「爆薬理学試験室」と「物理試験室」を対象とし、施設計画にかかる基本的な考え方は次のとおりです。

◆ 施設計画にかかる基本的な考え方

歴史的な建造物の“保存”と次世代のための“活用”的両立

①歴史的な建造物 の “保存”

産業ミュージアムとして整備する本建造物は、加賀藩下屋敷の跡地に設置され、火薬の製造・研究を行う官営工場として稼働しました。昭和20年（1945）まで国内有数の火薬工場として稼働し、火薬研究所による最先端の研究は、戦後日本の科学技術の発展に大きな貢献を果たしました。

第二次世界大戦後、その跡地には理化学研究所が入居することになり、平成27年に板橋分所が閉所するまでの間、長きにわたり日本の物理、科学の最先端の研究が行われました。

平成29年10月には、こうした近代的な火薬製造所と研究所の歴史的価値が認められた結果、加賀一丁目7および8番の地域とそこに残された火薬製造所の遺構や建造物を含め、国の史跡に指定されました。

こうした国の史跡の構成要素である、本建造物の歴史的価値を保存するため、保存修復の改修を行い、安全性を担保するための耐震化を施したうえで来訪者に本建造物の歴史的価値を伝えていきます。

②産業ミュージアムとしての “活用”

歴史的なストーリーが重層的に重なる本建造物の歴史的価値を未来につなげていくため、新たな区民の集う場として生まれ変わらせます。前項のソフト事業を定期的に入れ替えることを想定して、固定的な展示ではなく、常に新しい気付きのある展示をめざしていくものとし、様々な広さの自由度の高いスペースを準備します。また、可能な限りクローズドな空間は作らずに、来訪者が多くの部屋を訪れることが可能なオープンなスペース設計を検討します。なお、人が集いコミュニケーションが生まれる場として、動線や採光・必要な設備設置等を行い、居心地の良い空間設計を検討します。

歴史的な建造物の“保存”と次世代のための“活用”の両立

歴史を含めた建造物の“保存”

◆ 建造物全体の保存

本建造物は、史跡としての価値保存の観点から、当時の趣を維持しつつ、安全性を担保するための耐震化を施します。

また、歴史的理解を深めてもらうための復原的整備も行う方針です。



物理試験室 外観



爆薬理学試験室 外観

◆ 歴史的価値のあるエリアの展示

本建造物の中でも特に歴史的な価値があるとされる箇所（電気軌道のトロッコレール跡、宇宙線観測部屋等）は、産業ミュージアムでの展示に生かします。



電気軌道のレール
(物理試験室内)



宇宙線観測機器が
設置されていた恒温槽
(物理試験室内)



電子計算機を設置するため
の上げ床 (物理試験室内)



中性子線観測所土台
(爆薬理学試験室の南側)

産業ミュージアムとしての“活用”

◆ にぎわいを生む場としての空間設計

人が集いコミュニケーションが生まれる場として、動線や採光・必要な設備設置等を行い、居心地の良い空間設計を検討します。

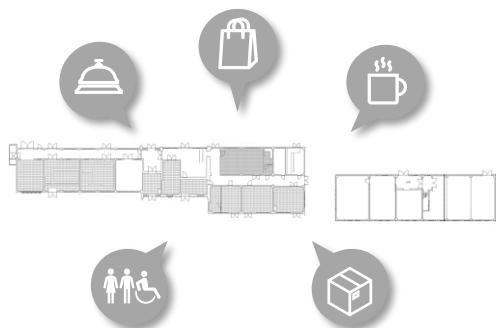


室内の様子 (物理試験室内)

◆ 必要設備の設置

ミュージアムとして具備すべき設備を設置します。

(例) 受付、飲食機能、グッズショップ、お手洗い、バックヤード等



(2) 産業ミュージアムに必要な機能

産業ミュージアムに必要な機能を以下に整理します。なお、さらに詳細な機能要件については、令和8年度以降に実施する、建物内部のデザイン設計や動線の設計等の検討の中で、整理を行っていきます。

① コミュニケーター機能（学芸員・ボランティア）

展示解説や子どもたちの探求心を引き出す遊びへの誘導を行います。一方的な情報伝達に留まらず、双方向のコミュニケーションを大切にします。展示されている歴史やコンテンツの楽しみ方をわかりやすく解説し、来訪者の発見と体験を豊かにします。ひとと学び、ひとと体験をつなぐ架け橋としての役割を担います。

② 展示機能

本施設に係る歴史的な設備や資料の保存と未来への伝達を目的に、テーマや時代背景に沿って展示品を配置し、来訪者に歴史的事象の理解を促します。単なる陳列ではなく、教育、学び、交流などの目的を達成するために見せる展示を行います。

③ 生涯学習機能（体験・交流機能などのソフト事業）

ソフト事業の内容に応じて自由に空間を使用できるオープンスペースを設け、多様な活動が行える場を設置します。柔軟な空間構成により、ワークショップや実証実験、キッズスペースなど様々な活動に対応できる環境を提供します。

④ 物販機能

産業ミュージアムに係るグッズを販売し、普及、収益確保の役割を担います。グッズは施設に係る知識を自宅に持ち帰る媒体であり、日常生活での記憶の定着を促し、体験を拡張することに役立ちます。

⑤ 飲食機能

産業ミュージアムの施設内に飲食機能を設置することで、来訪者の休息や利便性を確保します。この機能により来訪者が気軽に立ち寄ることを想定しています。

⑥ その他共有機能

その他、必要な設備として、以下を想定しています。

- ・受付（来館者への案内、チケット販売、館内施設の説明、情報提供など）
- ・授乳室・おむつ交換代・給湯室
- ・トイレ（多機能トイレ・キッズトイレ含む）
- ・事務所、倉庫など

(3) 各諸室の活用イメージ

ソフト事業は、各諸室に残されたエピソードにも着目し、活用方法のイメージを膨らませていきます。

① 物理試験室



湯川秀樹の研究室では、当時としては最速・最大の記憶容量を誇る電子計算機を導入しました。ここで培われた大規模計算の研究ノウハウと技術が現在のスーパーコンピューター「富岳」に繋がっています。

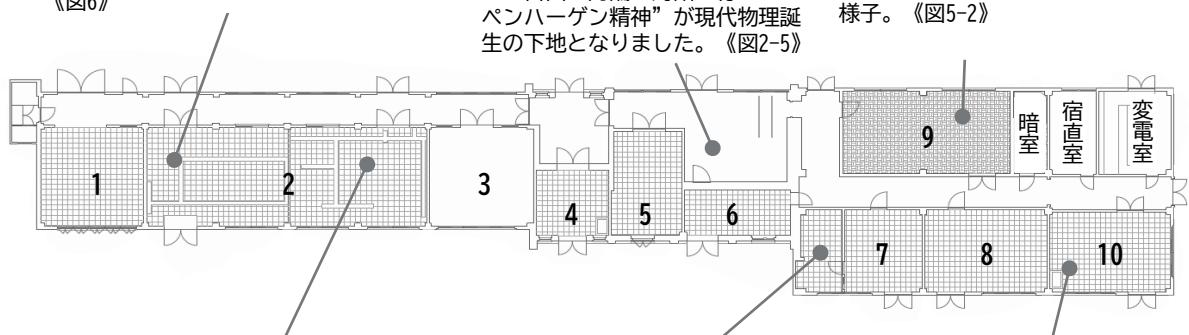
《図6》



研究員たちが卓球をしている様子。仁科芳雄が欧洲留学から持ち帰った、研究者たちが年齢や役職を超えて自由に討論と対話をを行う“コペンハーゲン精神”が現代物理誕生の下地となりました。《図2-5》



湯川研究室が発足した際、研究室の主任研究員である湯川秀樹が懇意にしていた「松屋竹寿司」の職人を招き、研究員たちと祝宴を催した時の様子。《図5-2》



宇宙線観測機器が設置されていた恒温槽



仁科型電離箱で宇宙線強度の測定を行っていました。《図2-6》



仁科芳雄を研究室の室員たちが囲んでいる様子。《図2-7》

現存する遺構や研究の足跡

研究者たちが研究と議論を重ねた場所

歴史展示・ものづくり企画展示

ワークショップ・セミナーなど

当地の歴史および理研の研究者や研究成果、また、産業やものづくりについて学べる空間へ

次世代を担う子どもたちの探求心を育み、新しい発見と出会える空間へ

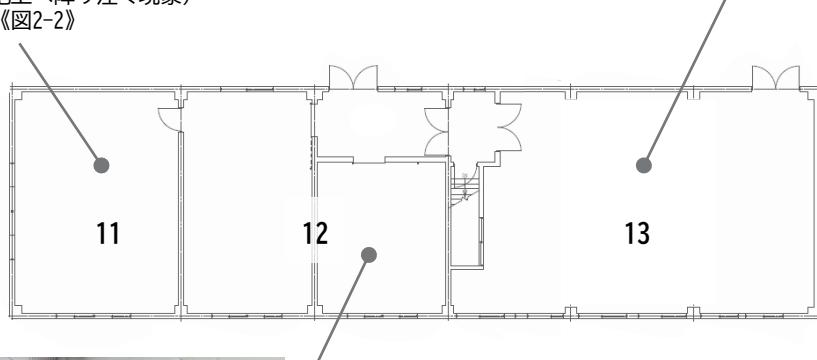
②爆薬理学試験室



空気シャワー（大気に突入した宇宙線が原子核と衝突し、無数の粒子がシャワー状となって地上へ降り注ぐ現象）の観測《図版2-2》



ガイガー・ミュラー計数管式宇宙線計（宇宙線の検出や計数ができ、粒子の飛来方向まで観測することができる装置）を研究員が操作している様子です。《図版2-8》



平成20年頃の大森素形材工学研究室で行われた研究会の様子です。仁科芳雄が築いた“コペンハーゲン精神”は、後の研究者にも引き継がれ、自由闊達な意見の交換により、単なる技術開発に留まらず、基礎科学の深い理解に基づいた「ものづくり」が追求されていました。《図版5-3》

古くから息づいてきた
「研究」の精神

実証実験の場

研究や実験が行われてきた場所で、
未来へ向けた新たな価値が創造される
空間へ

理化学研究所の自由で
闊達な研究の雰囲気

憩いの空間

親子で過ごせる乳幼児向けスペース
など、子どもたちが遊びを通した学
びを得られる空間へ

4 多様な主体との連携による事業運営

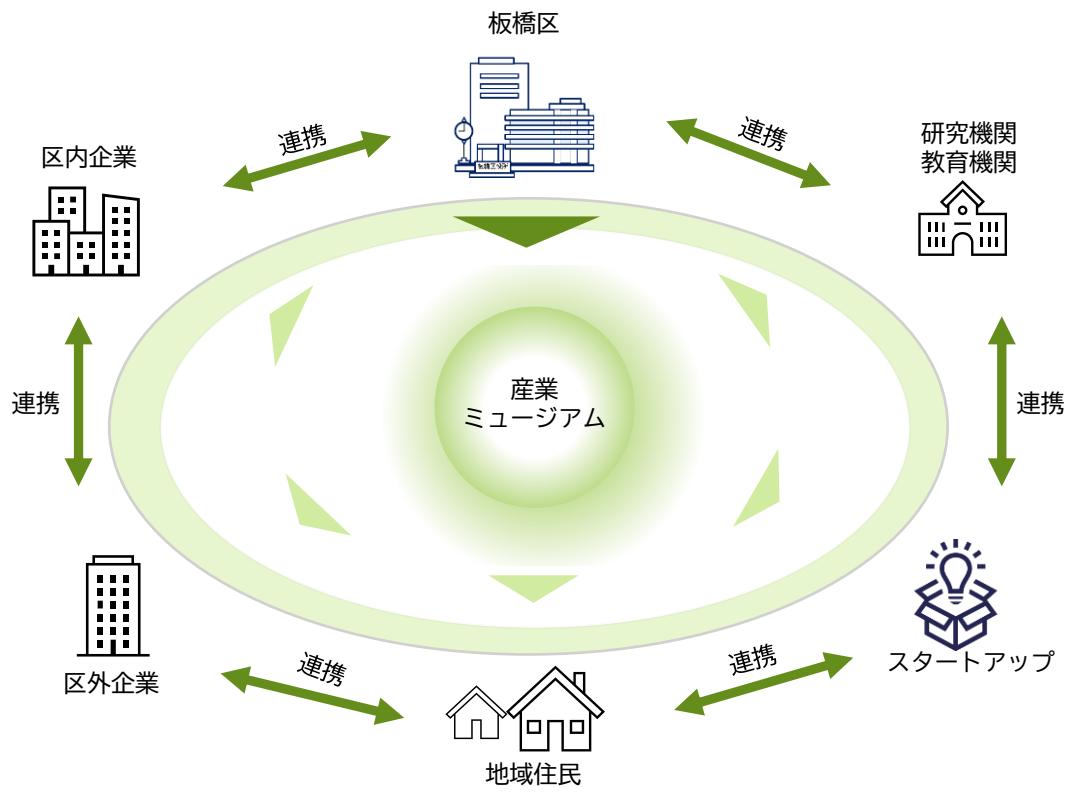
多種多様な研究が行われてきた歴史を持つ当地では、ひととひとがつながり、意見やアイデアが交わされることで、数々の価値が創造されてきた歴史があります。事業運営にも、その文化を引き継ぎ、産業ミュージアムを通じて、企業、大学や研究機関などの様々な主体がつながり、共創することで、新たな価値の創造を図っていきます。

また、加賀エリアをはじめとした近隣の地域や、小中学校、大学等との連携や、ボランティアによる運営への協力等、多様な主体との連携を通じて地域から愛される施設をめざしていきます。

なお、令和7年度から令和8年度かけて、史跡公園全体の運営にかかる民間事業者等へのサウンディング調査を実施し、多様な主体の意見を聴取する予定です。その結果を踏まえ、産業ミュージアムの管理運営主体や入場料などの取り扱いについて具体的な検討を進めていく予定です。検討にあたっては、史跡公園の整備予定地である3エリア全体（「現・加賀公園エリア」「旧・火薬製造所エリア」「旧・理化学研究所エリア」）で一体的に検討を進めていきます。

| 関係機関 | 役 割 |
|-----------|---|
| 板橋区 | 様々な関係機関等との連携を図りながら、産業ミュージアムを運営していく |
| 研究機関・教育機関 | 展示・コンテンツの監修など学術的な知見を提供し、次世代の理系・ものづくり人材の育成に寄与していく |
| 区内企業 | 地場産業の魅力を発信し、ものづくり板橋の産業ブランド向上につながる展示やイベント等に協力する |
| 区外企業 | 板橋区に関連する理系テーマや最先端技術に係るテーマを中心に、展示・実証実験・イベントに協力する |
| スタートアップ | いたばし重点イノベーション分野のスタートアップを中心に、先端技術の社会実装を進め、イノベーションを創出する |
| 地域住民 | 来館・イベント参加、地域活動との連携、施設周辺の環境維持等を通じて、産業ミュージアムを支援する |

◆ 連携イメージ



5 オープンまでのスケジュール

令和7年度の本構想・計画策定後は、石神井川南側の「旧・火薬製造所エリア」に立地している建造物の整備と歩調を合わせながら、建物内部の整備デザイン検討、基本設計、実施設計、整備工事を進めていきます。

また、令和11年度の産業ミュージアムのオープンに向けた気運醸成を図るため、いたばし産業見本市等における区民・企業向けのイベントのほか、区ホームページやSNSを活用した情報発信にも取り組んでいく予定です。

| | 整備内容 | 整備の方向性 |
|--------|--------------------|---|
| 令和7年度 | 本構想・計画の策定 | <ul style="list-style-type: none">産業ミュージアムの基本理念・コンセプト・具体的な機能等を整理し、爆薬理学試験室と物理試験室の内部整備につなげていきます。 |
| 令和8年度 | 建物内部の整備デザイン検討 | <ul style="list-style-type: none">爆薬理学試験室と物理試験室の展示デザイン、動線、ゾーニング、施設サイン、諸設備（電気、機械、給排水等）などを検討し、基本設計と実施設計につなげていきます。 |
| 令和9年度 | 基本設計 | <ul style="list-style-type: none">爆薬理学試験室と物理試験室の基本設計を進めています。 |
| 令和10年度 | 実施設計 | <ul style="list-style-type: none">爆薬理学試験室と物理試験室の実施設計を進めています。 |
| 令和11年度 | 整備工事、史跡公園のグランドオープン | <ul style="list-style-type: none">爆薬理学試験室と物理試験室の整備工事（耐震化を含む）を実施し、史跡公園とともに、産業ミュージアムがグランドオープンします。 |

図版出典：

- 図1 北区立中央図書館 提供
- 図2 理化学研究所 提供
- 図3 国立国会図書館デジタルコレクション『造兵彙報』第10巻特別號 転載
- 図4 個人 提供
- 図5 理化学研究所大森素形材工学研究室 提供
- 図6 日本大学生産工学部中澤研究室 提供

参考文献：

- ・板橋区編『板橋区区勢概要昭和21年版』昭和21年
- ・板橋工業五十年のあゆみ編集委員会編『板橋工業五十年のあゆみ』昭和57年
- ・一般社団法人板橋産業連合会編『創立50周年記念誌』平成8年
- ・公益財団法人板橋区産業振興公社編『いたばしの産業歴史紀行 夢そして未来へ』平成28年
- ・板橋区産業経済部産業振興課編『板橋区産業振興構想2025・板橋区産業振興事業計画2018』平成28年
- ・理化学研究所百年史編集委員会編『理化学研究所百年史 第1編 歴史と精神』平成30年
- ・板橋区郷土資料館編『震災後100年いたばしの現代化－関東大震災をきっかけに板橋はどう変わったのか－』令和5年
- ・板橋区教育委員会事務局生涯学習課編『工都展2021→2023の記録集 和音のようなもの』令和6年

(仮称) 産業ミュージアム基本構想・基本計画

編集 板橋区産業経済部産業戦略担当課

173-0004 板橋区板橋二丁目65番6号

TEL 03-3579-2430 FAX 03-3579-9756

sg-isan@city.itabashi.tokyo.jp

令和●年●月発行

刊行物番号 RXX-XXX